

米議会ブリーフィング院内集会へのメッセージ

核エネルギーの全面的使用禁止を訴える

平成24年9月20日

村田光平

元駐スイス大使

ご列席の皆様

この記念すべき集会に参加することは誠に光栄で心から喜んでおります。

1956年当時冷戦はたけなわで核戦争が人類を脅かしておりましたが、私はその頃の懸賞論文の中で世界は「全滅の瀬戸際にある」と記しました。今日、福島事故の結果が世界を脅かしております。4号機にはチェルノブイリの10倍のセシウム137が存在します。強い地震の発生はその崩壊を意味します。

日本国民は経験により核エネルギーが受容できない惨禍をもたらすものであることを悟りました。4号機の崩壊はその惨禍の一例です。日本は民事、軍事を問わない核廃絶を促進する歴史的役割を果たさなければなりません。福島を忘れることは決して許されません。

事故の犠牲者及び17万人の避難者の名において私は核エネルギーの全面禁止を訴えます。

1 スリーマイル・アイランド、チェルノブイリ、そしてフクシマは原子爆弾に劣らず恐ろしいものです。原発は潜在的な「巨大原爆」といえます。いかなる武器も4号機あるいは再処理工場がもたらしうる潜在的損害の足元にも及ばないのです。

2 福島事故は日本及び世界にとりさらに破局的なものとなりました。震度7以上の地震による4号機の崩壊という危険が今なお存在することを全世界に知らせなければなりません。

3 正常な判断が働けば頻繁な地震と津波に脅かされている日本に54基もの

原発の建設を許すことにはならなかった筈です。これを可能にしたのは倫理と責任の欠如以外には考えられません。お金と原子力発電所の経営にまつわる腐敗が破局の種をまいているのです。これは日本に限られたことではありません。

4 原子力を作る技術と核兵器を作る技術は同じものです。原子力発電所の拡散が核兵器の拡散に結びつくことを今日、北朝鮮及びイランで見せつけられております。未来の世代の安全を確保するには地球上から核分裂技術をなくす他はありません。

5 倫理と責任の欠如は未来の世代を脅かす核廃棄物の処理の解決が存在しないことにより浮き彫りにされております。日本の「原子力村」すなわち原子力独裁は原発の再稼働及び輸出を目指し、これにより原子力産業の巻き返しを図っております。これは不道徳です。国際的責任感あるいは世代間責任感の欠如の現れです。残念ながらこの状態が長引くことが憂慮されます。

6 世界が核廃絶に向かわないことの結末につき日本は警告をしなければなりません。8年前私は電力会社が日本の命運を左右すると指摘しました。2年前、バーゼルで開催された核戦争防止国際医師会議（IPPNW）の世界大会で核惨事によりもたらされる究極の破局を未然に防ぐために人類の英知を動員することを訴えました。悲しいことに、これらの警告も私が恐れていたことを防げませんでした。

7 原発事故の被害が世界中に及ぶことに鑑みれば、原発を所有しない諸国も民事、軍事を問わない核廃絶を求めるべきです。すでに原発を推進する道を選んでいる国々もそうするべきです。

8 本来、日本は調和と連帯を特徴とする母性文化の国でした。明治維新後、競争と対立を特徴とする父性文化が軍国主義という形で日本に導入されました。歴史は父性文化は破局に終わることを示しております。福島は世界第2次大戦後導入された経済至上主義という形の父性文化の結末です。力の父性文化を治療するのは和の母性文化です。

9 原発事故は人間社会が受容できない際限のない惨禍をもたらします。福島はこのような可能性は完全にゼロにするべきであることを想起させたのです。核兵器も原発もない世界という大原則を忘れてはなりません。このヴィジョンの達成には母性文明への移行が前提条件です。

10 現在、人類は文明の危機の直面しております。その真因は倫理の欠如です。天然資源を濫用し枯渇させ、永久に有害な廃棄物と膨大な負債を後世に残すことは倫理の根本が許さないことです。地球倫理は環境と未来の世代の利益を尊重する母性文化を求めます。それには利己主義から連帯へ、貪欲から少欲知足へ、そして物質中心から精神中心への三つの方向転換が必要です。このような文明が必要とするエネルギーは、過渡期を化石燃料で補えば自然・再生可能エネルギーで十分まかなえる筈です。人類と地球の長期にわたる安全のために、生活様式の面で短期間ある程度の犠牲を払う覚悟をしなければなりません。

11 国連倫理サミット開催の提案は国際的に関心を呼んでおります。地球倫理、母性文明及び真の核廃絶という三位一体を現実にしなければなりません。オバマ大統領の「核兵器のない世界」は「核兵器も原発もない世界」にする必要があります。国連倫理サミットは具体的第一歩です。オバマ大統領が同サミットの実現し、倫理の重要性に毎年思いをはせる地球倫理国際日を創設するためにイニシアティブをとることが切望されます。当初から倫理の内容について論争が行われないように注意深く配慮する必要があります。

(結語)

しめくくりとして以下のように述べさせていただきます。

福島 of 危機的状況は最も広範囲な人類の英知の動員を必要としております。中立評価チーム及び国際技術協力チームを緊急に設置する必要があるとは明白です。

4号機の崩壊が進む冷却プールから燃料棒を他の場所にできるだけ早く移さなければなりません。

ますます多くの日本国民は原発事故と原発の真の恐ろしさに目覚めつつあります。日本は着実に核エネルギーへの依存をゼロにする政策の確立に向かっております。

「天地の摂理」は人類と地球を守る「哲学としての天の摂理」の私の訳語です。そのうちに民事、軍事を問わない真の核廃絶の達成を助けることでしょう。全てを失った被害者たちの激怒は日本、そしてやがては海外での反核運動を盛り上げることになりましょう。

いまや日本は真の核廃絶の実現に貢献しなければなりません。これがかなえば広島、長崎、そして福島の犠牲者の苦しみも無駄ではなかったことになりましょう。